

令和 8 年度 前期始業式 校長式辞 (R8.4.7)

本日より、令和 8 年度が始まりました。春休み中、大きな事故の報告もなく、皆さんがこうして元気に集えたことを嬉しく思います。

初めに、3月に卒業した先輩方の進路についてお話しします。大学・短大への進学が52%、専門学校が27%、合わせて約8割が進学し、就職・その他が2割と、例年同様の傾向となりました。

就職については、現在どの業界も人手不足であり、高校卒業者は企業にとって大きな力となっています。しかし、就職試験で苦勞する生徒に共通していたのは、欠席日数が多く、書類選考の段階で不利になるケースが多かったようです。

会社にとって欠勤は、そのまま利益に影響するため、高校時代の欠席日数は重視されます。だからこそ、まずは日々の学校生活を大切にし、休まず登校することが大切です。その積み重ねが、将来の進路を切り拓く力になります。

進学については、国公立大学に22名が合格し、そのうち5名は普通科からの合格でした。中には、3月下旬の後期試験で合格をつかみ取った生徒もいます。最後まであきらめない気持ちの大切さを、改めて教えてくれました。

先月の修了式では、教員という職業の魅力についてお話ししました。保育や看護など、社会を支える仕事は「エッセンシャルワーカー」と呼ばれています。人の命や生活を支える大切な仕事です。

「エッセンシャル」とは「必要不可欠」という意味ですが、教員もまた、人の未来を支える、なくてはならない仕事の一つです。生徒一人ひとりの成長に関わり、その人生に影響を与える——そこに、この仕事の大きなやりがいと責任があります。

決して楽な仕事ではありませんが、その分、他には代えがたい価値があります。近年、国においてもエッセンシャルワーカーの処遇改善が進められています。皆さんが進路を考える際には、こうした仕事にもぜひ目を向けてみてください。

さて、明日は入学式で、304名の新入生を迎えます。ここ3年ほど、やまぎん県民ホールで開催していましたが、今年から学校の体育館に戻すことにしました。今年の新入生から制服が一新されるため、慣れるまでは別の学校の生徒のように感じるかもしれません。

伝統とは、形を一つも変えずに守ることではありません。大切な精神を受け継ぎながら、時代の変化に応じて新たな形を生み出していくことです。そして、真に受け継がれているものの中にこそ、新しさが宿ります。明日の入学式では、そのことをスペインのサグラダ・ファミリアにたとえて話す予定です。

さて、2月に実施した学校評価アンケートでは、本校の良い点として、生徒の皆さんからは「ICTの活用」や「生徒思いの先生方が多い」といった意見、保護者の皆様からは「子どもと先生の距離が近くサポートが手厚い」「厳しくもなく緩くもなく居心地がよい」「時代の変化に合わせて柔軟に対応している」などの声が寄せられました。

一方、「改善すべき点」として、「校則が厳しすぎる」という意見がある一方で、「校則をしっかりと守らせるべき」という声も多く寄せられました。近年、「自由」を大切にしている教育が広がっていますが、「それは放任ではないか」という不安の声もあります。しかし、自由と放任はまったく異なります。

放任とは、大人の関わりが薄く、生徒が支えのない状態に置かれることです。一方で、教育における自由とは、生徒が支えの中で、自分で考え、選び、試行錯誤できる状態のことです。すなわち、自由とは「何でもしてよいこと」ではなく、「自分で選べるように整えられた環境」のことです。

昨年秋に校則を見直し、春と秋の制服については、上下を自由に組み合わせることができるようになりました。これは単に制約を緩めたのではなく、自分で考え、判断し、選ぶ機会を広げることを目的としています。

では、そのような自由を保障するためには、何が必要でしょうか。

それは、集団における関係性の深さに他なりません。互いに信頼し、安心して選択できる土壌があるかどうか——そこにかかっています。すなわち、本校の校訓である「敬愛信」そのものです。人を敬い、人を愛し、人を信じる。その土壌があつてこそ、自由ははじめて真に力を持つのです。

そして、自由を保障する上でもう一つ大切なのは、大人自身が揺れを見せることです。教員は常に正解を示すのではなく、ときに自分の未熟さも含めて言葉にしていくこと。そうした姿に触れることで、生徒は「揺れてもいい」と感じ、自分の力で選ぼうとします。そうしながら、少しずつ完成を目指して自分を築いていく——その姿こそ、サグラダ・ファミリアに重なります。

本校は今年で創立 100 周年を迎えました。サグラダ・ファミリアを設計したアントニ・ガウディが亡くなったのもちょうど 100 年前のことです。

10 月 22 日には、やまぎん県民ホールにおいて記念式典を行います。また、ポップスピアニストのハラミちゃんによるミニコンサートも予定しています。実は 3 年前の卒業式では、コロナ禍で高校生活が思うように送れなかった卒業生のために、ハラミちゃんがサプライズで演奏してくださいました。その様子を編集した動画は、100 万回を超える再生回数を記録しています。

結びになりますが、この一年が、自分自身を築いていく実り多い年となること、そして本校が新たな 100 年に向けた確かな第一歩を踏み出す年となることを心より願い、話を終わります。